

『リバー』

村田青葉

【舞台設定】

舞台は両サイドに壁のようなものが建ち、客席からの視界は限定されている
中央には、前後を分けるボーダーがある

これらにより、観客は見えない部分を想像し、ボーダーの「こちら側」と
「あちら側」があるということを意識することになる

※せんがわ劇場での上演時には、縦割りの緞帳を閉め、中央には紐を張った。

①

「プロローグ」

2 　　いつか　いつからか　目の前に

（向こうが）見えない

たった　これだけの

2 　　「高くしたんだなあ」

2 　　本当に　こんなので意味あるの　っていう

たった　これだけの

でも、それによって安心してしまふ／安心感を抱いているんじゃない
かっていうことが、だって、すぐそこで

2 　　いつか　いつからか　目の前に

向こうが見えない（訳でもない　だって）　透明　アクリルの壁

本当に　こんなので意味あるの　っていう

「プロローグ・2」

1 あ、どうも、よろしくお願ひします。五月！ はい、ありがとうございます。
います。

1 あの、これ。これはですね。僕から見た、小さな谷川の、底の、川の
底を写した、2枚の、青い、幻燈、、幻燈って、映写機みたいな、フ
イルムを拡大して写し出す、、今だとプロジェクターみたいなもの、
かな？ ですね。それになります。

3 【二ひきの蟹の子供らが青じろい水の底で話していました。】

1 (幕の開き具合を見て) 狭い！ これ、狭いですよね、すみません。
今開けます。狭いっていうか、なんか逆に少し開いているみたいな感
じですよ。はい、じゃあ緞帳開きます。

緞帳を開けるも、なお舞台上の視界は狭いままである

1 いや変わらないんかい！ ……っていうね。

1 はい、じゃあ始めます。

①

「1. 1. 1」タクシー

2 劇場までお願いします。

1 劇場？

2 あのー、（せんがわ劇場）

1 ああ、はいはいはい。監獄通りのとこのね。

2 監獄。

1 あの辺ね、監獄通りって言われてるんですよ。うちの間だけかもしれないですけど。ってか私が勝手にそう言ってるだけか。監獄。思いません？

2 あ、いや、初めて行くので。

1 あ、そうなんです。や、行けばね、すぐに分かると思うんですけど、道路の両側がね、コンクリートの打ちっぱなしで、壁みたいになっててね、、、

2 はあ……。

1 まあちよっと行った時見てみてください。

「1. 2. 1」仙川

2 なん（だこれ）……。両側が、、、壁みたいになっていて、どうしてこんな、高くする必要とかあんのかね。これは、、、なんていうの？ 垂

直につくられた、まるで壁みたいな、コンクリートの、、護岸？ 用水路。

1 でも東京とかだとだいたいこんな感じでしょう。

3 なんて東京だとこういう川なの？

2 水の流れは、辛うじて。どうしてこんな、、川底に溜まった土と、そこから雑草？ 川のどこも水量が同じくらいで、その間を縫うように流れ、、ていて、さらにその間を縫うように、、生き物だ。

「1. 3・1」中津川

3 今日は、実は水位が高い方なんですけど、本当だったらあの河川敷辺りは歩くことができ、犬の散歩とか、ランニングとかしてる人もいます。

2 (覗く)

3 これなんで雨も降ってないのに水位が高いかって言うと、雪解け水ですね。この時期にだいたい山の方の雪が解けて、川に流れ込んで、水位が上がります。

2 (頷く) へー。

3 あ、そうやってね、秋とかに覗くじゃないですか。そうするとね、みんな立ち止まって川の下を見るんですよ。

2 え？

3 ここ、実は鮭が昇ってくる川なんです。

2 へー。

3 だからこうやって秋頃に誰かが橋の下を覗くと、「あれ、いるのかな？」
ってみんな足を止めて、なんかそういうのがこの辺の秋の風物詩だっ
たりします。

1 【つうと銀のいろの腹をひるがえして、一疋の魚が頭の上を過ぎて行
きました。】

3 鉄の塊が空を飛ぶなんてすごくない？

2 あー……、まあ、確かに。

1 あ、生き物だ。

「1. 2. 2」仙川

1 鴨と、サギ、と、あとなんか大きめの魚がいて、あれは、、、鯉？

3 え、なんだろう。え、鯉ではないんじゃない？ 鯉かなあ。

1 思ったより生き物がいる、というか、生き物がひっそりとしているよ
うに感じる。

3 あ、あそこにもいる。あ、てかいっぱいいいんじゃない。あそこ、びっし
りいる。

1 普段気にも留めなければ、目に入ってくるこのない距離にいる、他
の生物。

3 うわー。てかゴミ凄くない？ さつきから袋とかボールとか、

2 川底に溜まった土と、そこから雑草？

- 3 え！ あそこ、自転車あるよ。
- 1 近くに公園とか、学校があった。ボールは結構な確率で「もしかしたら」がある。
- 2 川のどこも水量が同じくらいで、
- 1 そういう意味では、幸せの象徴なの、かも、しれない。
- 2 水の流れは、辛うじて。
- 1 でも自転車に「もしかしたら」はほとんどない。
- 2 どうしてこんな、、
- 1 でも東京だとだいたいこんなでしょう。
- 3 なんで東京だとこういう川なの？
- 1 だけじゃないでしょ。多摩川とか。
- 3 多摩川は東京？
- 1 怒られるよ。
- 3 ああ、、って答えながらも、私の「なんで？」に対する答えって、
- 1 隅田川とか。
- 3 私の「なんで？」に対する答えって実はもらえていなかったのに、
- 1 神田川！
- 3 東京の川大喜利が不意に隣で始まってしまったって。
- 1 ♪ (南こうせつとかぐや姫の『神田川』を口ずかす)
カラオケ大会も始まってしまったって。

「1. 1・2」タクシー

- 3 へー、岩手？ 岩手って言ったたら東北だ。

- 2 ですね。
- 3 あれ？ 青森？
- 2 なにがですか？
- 3 青森は岩手？
- 2 青森は岩手の北ですね。岩手県は、あれです。大谷とか、
- 3 あ、オオタニサン！ 二刀流ねえ、そうだそうだ。あと、雄星とか、
- 2 佐々木朗希とかも岩手だもんね。あー、すごいね、野球すごいもんね。
- 2 実は、佐々木朗希と同じ出身なんですよ。
- 3 えー、朗希！ 165km/hー。へー。あれ？ 花巻……
- 2 あ、花巻東ではなくて、大船渡っていう海の方の。
- 3 あー、海の方……。
- 2 私も、海のそばで育ったので、海が見えないと息が詰まるんですよ。
- 今、住んでいるところも山に囲まれていて、うってなる、なってたんですけど、最近は川で、我慢してやっています。
- 2 ……っていうことは、言わなくてもいいから、言いません。
- 3 どうしてそんなにいいピッチャー出てくるんだろうね。
- 2 あー、遊ぶところないから、他にやることないからじゃないですかね。
- 3 食ってるものかなあ。
- 2 あー。
- 3 食ってるもんが違うんだろうね。体作るから。
- 2 あー、ですね。

「1. 3・2」中津川

1 ここは、かつて川が流れていて、お城に物資を届けるためにも舟運、舟と川を使って、木材とか、それからお米や新鮮なお野菜とか、そういったものを運び入れていたんです。

3 へー。

1 ただ、この川も暴れ川でして。雨が降って、水かさが増すと、氾濫なんかもして、城の工事が遅れたりするということもあったようです。

3 はあ。

1 さあ、そのままにしているのは街の発展の妨げになってしまうというところで、この川をぐいっと流れを変えたんです。だから、今私達が立っているここは、かつての川の上なんです。

「1. 2. 3」仙川

3 川の上、、、東京には、暗渠、地下に流れる水路ですね、がたくさんあって、むしろ、暗渠があると東京だなんて思う、、って誰だか言っていたような。だから、普段何気なく歩いている道の上にも、もしかしたら暗渠が流れていて。

2 川は、、、

3 衛星地図を見て、川の源流を探したら、なんか急に、山の方とかじゃなくてなんか急に川が出てきて、お前らはどこから出てきたんだよ、って言う川が、また、途中でいなくなっって、これは何？ っと思いません。

2 川は、海に流れ出る。

3 そう思いますよね。

2 だから、川も最近は悪くないなって思うようにしています。

3 でも、実は地下を流れて、大きな川に合流しているみたいなんです。

2 息が、、、

1 見えない？

3 見えないんです。

1 監獄に。見えないか。ってか私が勝手にそう言ってるだけか。監獄。

2 息が、、、

1 思いませんか？

「1. 1. 3」タクシー

2 あ、いや、初めて行くので。

1 あ、そうなんです。や、行けばね、すぐに分かると思うんですけど、道路の両側がね、コンクリートの打ちっぱなしで、壁みたいになっててね、圧迫感が凄いついていうか、迫ってくる感じっていうか、あんまり人のね、生きてる感じがしないっていうかね、、、

2 はあ。

1 あ、ほら、ここです、ここ。

2 あー……。

1 どうです？

2 息が、詰まる。

②

「2. 1」陸前高田

2

大学一年生の時に陸前高田に授業で、被災地研修で行って、その時、私のほかにも震災を経験している人は二人いたんですけど、でも内陸の大学だから、他の参加者の人、20人くらいいる中で「人くらいは震災を経験してない人で、津波も見たことがないっていう人たちばかりで、その中で、自分の地元の隣の市の、陸前高田に被災地研修で行って。

2

何も、ない状態になった陸前高田だったけど行った時にはかさ上げがされてもう新しい商業施設がその上にできていて、あ、こんなになってるんだ今と思いつながら、すごいなって。人が集まる場所が、もう出来上がってるわ、と思いつながらそこを見て。で、そこを下って、もう地面しかない、ところ、に、今度は行って。そこで、震災の時、に、被害を受けたままの建物がそのまま残っていて。そのの、お店だったんですけどそのお店の店主さんが被災地、震災の時のことをみんなに教えてくれるということで、みんなでヘルメットをつけて、お話を聞いて、3階建ての建物だったんですけど、まず1階から、震災当時がその店主さん何をしてたか、とか、どういう、、状態だったかっていうのをみんな聞いて。

建物の中はそのままというか、泥とかはないけど、なんか、、被害を受けたままぐちゃぐちゃのまま残ってるという、感じ、で。で、そこが、その場所が、周りが何もない、のに、そこだけ残ってるのは、不思議だなあという感じ、で、津波が来る前何をしてたかとか、津波が来て、「もうお店にいたから他のところには逃げられない、ってなあって2階3階、で屋上、って逃げたんだよね」、っていうのを聞きながら、私はちよつとだんだん、話を聞けなくなってきて。んー、なんかちよつと具合悪いなあと思いつつ、すごいリアルな話を聞いて、で「実際に逃げた2階3階に行ってみましょう」、ということで2階3階で上がって、で、最後屋上。屋上に逃げたからということでもみんなで屋上に上がって高田の街を見下ろしてみ、やっぱり、、もう何も無い状態。真つ平らな土地にその建物だけ残って、でも後ろの方にはさつき見た商業施設のかさ上げが、あって。すごいその時間の隔たりというか、変わってないところと変わったところが同居してるなあ、と思いつつ、津波の話聞いて。

で、その後。屋上よりもさらに上に、ちよつと煙突みたいな形になっている、構造があったんですけど自分はそこに登って、最終的に助かったって店主さんが言っていて、そこにみんな登ってみる、ということになったんですけども。私が実際に震災を体験した時に、自分も、建物の、屋上に、逃げる。ということをして、その時の自分の登る動作と、みんなが登っている動作と、店主さんの話の中にあつた店主さんがその当時登った動作が、重なってしまったって、「あ、私はもうこれは登れないです。」って、先生に言って「あ、ごめんね。」って言われ

て。他の人は、真剣には話を聞いていたけど、「わー、こんななんだ」
っていう反応、で、登る動作をしていて。それも見ていられなかった
ので、高田の真っ平らな街を私は一人で見下ろしていて。何が、具合
悪かったのかっていうと、みんなは何も知らない、かもしれないけど、
すぐ、そこで、人はたくさん死んでいるし、そのの、地面。すぐ隣の
地面で、誰かの遺体があったかもしれないし、誰かが逃げられなくて
津波に飲まれた場所がすぐそこにあるかもしれない。っていうのを私
は考えて……。

2
でも、知らない人からしたらそこまで想像はできないだろうし。何も
別に感じないだろうし。なんか、そんな状態で、その当時被災した店
主さんの話を聞くんっていうのが、私には耐えられなくて。高田の、何
もないところと、これからができているところが、同居しているところを、
見下ろしていたなあって思います。

「2. 2」空白

間

「2. 3」解体現場

3
ここ、何もありませんね。今解体していて、この前まではショベルカー
とかもあつたんですけど、ちょうどすっかり何もなくなったところで、

何もないところをご紹介するのはなんか変な感じですが、ここには、かつて百貨店がありました。

1 (頷いている)

3 あ、ご存じでしたか。来たことあります？

1 友達から、前に地下でご飯食べたことがあるって、聞きました。

3 あ、そうなんですね。そういえば、地下は残るみたいな話も聞きました。

1 あ、へー。

3 分からないですけどね。それで、ここは結局老朽化と経営難で手放した感じだったんですけど、その前も別の会社が経営していて、ただそこは震災後に、、、あ、震災とは直接関係ないんですけど、ガス爆発事件が起きてしまったみたいで、閉店となっていました。今回は一度まっさら解体をして、また商業施設と、それから高層マンションが一体化した複合施設を建設するようです。

「インターミッション」

1 ……だ、そうです。

1 あの、、、『やまなし』って、宮沢賢治の、『やまなし』って、ご存知ですか。ご存知ですか（あ、そうですそうです）あの、「クラムボンはおかぷかぷ笑ったよ」のクラムボン違うわ『やまなし』、ですね。

1 実はあの、僕が冒頭で話した「谷川の底を写した2枚の幻燈」っていうのは、『やまなし』のお話でして、これからその次の、2枚目の、幻燈に移りたいと思うんですけど、、、その前に、、、

1 まっさらに解体をして、、、って、いや、（布）あるだろうって、僕はすごいそういうの気になっちゃうんですけど、これ、降ろしちゃいたいと思います。あの、、、（布が落ちることに対する注意を伝えたいが、）いか。……あの、落ちてきます。ので、気を付けて、気を付けて？心の準備、を、しておいてください。では、いきます。お願いします。

舞台を狭めていたものが形を崩し、視界が開ける

③

「3. 1・1」やまなし

先ほどまで舞台上を遮っていたものが舞台上に残り
澱のようになる

1 【十二月】

1 ああ、ほんとうに川は海につながっているんだなあって。

1 【蟹の子供らはもうよほど大きくなり、底の景色も夏から秋の間にす
っかり変わりました。】

1 あのあと、車で行ったんですよ。被災地の方に。

その澱が、1の足元にまとわりついていく

1 【そのつめたい水の底まで、ラムネの瓶の月光がいっばいに透きとお
り天井では波が青じろい火を、燃したり消したりしているよう、あた
りはしんとして、ただいかにも遠くからというように、その波の音が
ひびいて来るだけです。】

1 そしたら道に迷っちゃって、

1 【蟹の子供らは、あんまり月が明るく水がきれいなのでねむらないで外に出て、しばらくだまって泡をはいて天上の方を見ていました。】

「3. 2・1」百貨店の地下

3 ヘー、知らなかった。
2 ね。私もあんまり来たことないけど。
3 ヘー。いいね。結構種類あって、フードコート。
2 ね。
3 えー、何食べよ。
2 一回座る？
3 あ、うん。座る座る。ヘー、知らなかった。来れてよかった。
2 (ここ)おばちゃんたちの憩いの場になっています。
3 あ、いいんだそんな感じで。あ、ほんとだ。いいね。のんびりしてる。
2 ね。もしかしたらさ、もう来ないでしょ。
3 いやー、もう分かんないよ。
2 え？
3 もう、分かんない。就活がね、もう怖い。今エントリーシートとか書いてるんだけど、
2 あ、もうなの。
3 そう、専門だからね。2年だから。
2 あ、そうか。早いね。
3 いやー、もう分かんすぎる。羽田か成田。行きたいなあ。

2 でも、なるさんは「It's a piece of cake. (イッツアピースオブケーキ)」でしょ？

3 ああ、まあね。えー？ コッシーは今どうしてんの？

2 私、はね、演劇やってるよ。

3 え！ そうなの？ 演劇？ 何、役者さん？

2 そう、出る。

3 えー、すごいすごい！ コッシーそうなんだ、へー。え、コッシーが出てるの観に行きたいなあ、いつか。

1 どうか道とかなんか分からない感じになってたから。

3 ……って言っていた私は、その後無事に羽田空港での就職が決まりました。パイロット、ではなく、CAでもなく、グランドハンドリングって言う、通称グラハンって言うんですけど、飛行機に関わるお仕事に就きます。私がやっているのは、お客様のお荷物を機内に積み込んだり、降ろしたりする、そういうお仕事です。

2 おめでとう。

3 ありがとうございます。私は、とにかく空に関わる仕事をしたくて、だからそれが今叶って、とても嬉しいです。

「3. 1・2」やまなし

1 そしたら、山の、森の方に出て、そこを走っている時に、明らかに家とか、流されてきているんですね。川を遡って。「うわ、うわ、こ

ここまで来たのか」って。だから、その時に、「あ、ほんとに海から、この川は海につながっているんだ」って思ったんですよ。

澱の中なら、声が聞こえてくる

澱 「ファイト」、ですか？

1 え？

澱 ♪ (中島みゆきの「ファイト！」を口ずさむ)

1 その時、本当は絵本の朗読をしに行く予定で、なんか送るとか、そういうのも良かったんだろうけど、実際に行くことが大事だろうって、思ってた。で、労働をするのもそう、だけど、もっと人とコミュニケーションシヨンというか、そういうのが必要かなってことで、朗読。

澱 ♪ (なおも歌っている)

1 中島みゆきの。

澱 私あれ、全然分からないですよ。この歌を聞いて、私どういう気持ちになればいいのだろうってすごい疑問に思うんです。

1 あ、魚たち登って行けーみたいな。鮭。海に行って川のぼって来るから。

澱 その、「がんばろう」みたいな。「がんばろう」ってなんだろう、どの立場で、どの人が言えるのかな、みたいな。

1 あー、ごめん。

澱 あ、いや全然そういうんじゃない。ただの、ただ本当に疑問、です。

1 のはずが、そのコミュニケーションがうまくいなくて、結局そういうことはそれっきり。でも、そのあとも何度か来たりはして。そ

れで、何年かしてから、出来上がった防波堤を見た時に、あー、
「バベルの塔」、

澱 「バベルの塔」？

1 「バベルの塔」って、どういう内容分かる？

澱 名前だけ？ 聞いたことはあります。でもよく知らないです。

1 そっか、知らないか。

澱 はい……。

1 「バベルの塔」、建っちゃったねえ。

1 あの日会ったあの子に、そんなこと言ってやったらどうだったろう、
なんて、要らぬことを想像したりもして。

2 アクリルの壁。

1 んなー！。

1 は澱から逃げ出すように駆けていく

「3. 3. 1」空

2 もうどこにも受からない。どこも入れるところない。

3 そんなことないって、大丈夫だよ。どこにも行けるよ。だってほら。

3 ほらご覧。鉄の塊が空を飛ぶなんてすごくない？

2 どうゆうこと？

3 だってあれ全部鉄でできてるの、鉄の塊だよ？

- 2 あー……、まあ、確かに。
- 2 で、結局どうゆうこと？ って思いながらも、それはそれとしてずいなくなって本当に思っ。なるさんは、本当に空が好きだ。
- 3 (THE HIGH-LOWSの「バームクーヘン」の一節：空を目指した偉人たちの功績で、月にロケットを飛ばすという意のものを読み上げる)
ん？ 何それ。
- 3 空飛び偉人シリーズ。曲の歌詞なんだけど。
- 2 空飛び偉人？ あれは？ なんだったけ。歌がね、流れてた気がするんだけど。ギリシヤ神話的な。
- 3 あ、イカロス？
- 2 あ、そうイカロス。イカロスは？
- 3 イカロスはダメ、死ぬから。
- 2 死ぬんだっけ。
- 3 太陽に近づきすぎて、あ、蟬でつくった翼だったから、それで蟬が溶けて、落ちて死ぬ。
- 2 ああ、それは縁起悪いわ。
- 3 うん、だからダメ。イカロスは。調子乗りすぎた。
- 2 調子って、
- 3 だからね、調子乗らないくらいがいいんだよ。コッシー。「It's a piece of cake. (イッツアピースオブケイク)」だよ。
- 2 「だね！」って返事をしながらも、正直こっそり「一体何を言ってるんだねこの人は」って思ってたんですけど、思ってたんですけど、

帰って調べてみたら『宇宙兄弟』の名言って出てきて、意味を知って、「うわっ」って。

3 ね。

2 なるさん、『宇宙兄弟』好きだったもんね。

3 『宇宙兄弟』っていうか、宇宙全般。

2 宇宙全般。そうだそうだ。なるさんは、宇宙も含めた空が、本当に好きだ。

2 私が、受験がうまくいかなくて落ち込んでいた時に、そうやって励ましてくれたなるさんは、実はなるさんの方が点数が低くて、目指していた大学にどうしても届かないってなっていて、本当は苦しんでたはずなのに、、、強えやつなんです。

2は、澱の中に溶け落ちて行く

「3. 2・2」元・解体現場

1 ここ、、、

3 すごいオシャレ。

1 すごいオシャレですよ。実は最近オープンしたばかりのショッピングモールで。で、実はこれから高層マンションがさらに建設されまして、商業施設と住居が一体となった複合施設になっていくんですけど、ここは前も、以前も百貨店がありました。

3 (頷いている)

1 あ、ご存じでしたか。

3 前に、はい。一度だけ友人とご飯したことがあって。

1 あ、そうなんですね。たぶんそのご飯を食べたという百貨店は、老朽化によって解体されてしまったんですけれど、前にガス爆発事件が起きてしまったこともあったみたいで。実は、そのガス爆発の際に死者が一名、出てしまったようです。

3 あ、そうだったんですね。

1 はい。でも、いい場所だったって。僕も、友達から。前に地下でご飯食べたことがあるって友達が、いろんな人がのんびりできるいい空間だったって。前のことは知らないですけど、その後の、事故があった後のことしか知らないですけど、なんなら僕からしたら聞いた話だけですけれど。いい空間だったんだ、いい場所だったって。言っていました。

1 は、もう一度澱と対峙するために、澱の下へと向かっていく

「3. 2・3」元・百貨店の地下

すると、そこで2に出会った

1 来ました。

2 すいません、どちら様ですか。

1 あの時、あの日会ったあの子に、言ってやったらどうだったろう、なんて、要らぬことを想像した自分に、けじめをつけに来ました。

2 いったん受け止めます。

1 そもそも、なんで「バベルの塔」を建てたんだと思いますか？

2 バベルの塔。

1 実は、その前に「ノアの箱舟」の話があったよう。

2 ほう。

1 「ノアの箱舟」は、神が怒って、地上に洪水を起こして、ノアがつくった箱舟に乗っていた人たちだけが助かったという話なんですけど。

2 はい。

1 「バベルの塔」は、「ノアの箱舟」のあとに、もうあんなことになったら埒明かないって言って、洪水が来てもいいように高い建物を作ったんです。それなのに、神様が「あれあれ？　なんか来てない？」ってなって、言語をバラバラにしたんです。コミュニケーションを取れないように。

2 ええ。

1 で、今もなんでもかんでも壁みたいな作って、物理的にもコミュニケーションが断絶された感じになっちゃってるじゃないですか。なんかそういう皮肉だなあって、そうです皮肉です。皮肉を、僕は頭の中で、想像である子にぶつけてしまったので。これはその謝罪です。

2 いったん受け止めます。

1 ごめんなさい。

2 はい。

1 でも洪水から守るために高い建物作るって、めっちゃ人間の叡智じゃないですか。何度も何度も。

2 はい。

1 ていうか、コミュニケーション取れなくたって、そのことを話題にコミュニケーション取るじゃないですか。「あれ高くないですか？」って。それができるのが人間っていうか、不満でもいいけど、共有し合おうじゃないですか。だから全然、高いの、悪くないなって思っ
2 高いの、
1 とにかく、あの日頭の中でそんなこと考えてしまっ
てごめんなさい。そしたらあの子はなんて返しただろう。こ
うやって相手のことを想像する、これもコミュニケーションじゃないですか？

2 自分はそのに登って、最終的に助かったって店主さんが言っ

2は、自らの意思で舞台へ上がる

「3. 3・2」空

そこには、3がいた

3 あ、きたー。
2 なるさん。
3 なに？
2 宇宙の話、聞きたいんだけど。
3 宇宙？
2 最新の宇宙話。なんかない。

- 3 あー、最新だと、なんか、すごい大きなブラックホールが見つかったって。
- 2 そうなの！ そんな何個もブラックホールってあるの。
- 3 うん。いっぱいある。それで、すごい大きいやつ。太陽の約327億倍らしい。
- 2 そうなの！
- 3 そうそう。
- 2 さすが。
- 3 あと太陽が近づいてきているらしい。
- 2 え、そうなの！？
- 3 あ、でもこれはアレだよ。何十億年とかそういう単位の話だよ。
- 2 あー。
- 3 そうそう。だから全然今のうち、生きてるうちは。
- 2 あー……詳しいやつぱり。
- 3 日々進化してるよね、宇宙は。
- 2 え、それさ、イカロスやばくない。
- 3 え？
- 2 太陽近づいてきたら、イカロス、平地でも溶けちゃうんじゃない。
- 3 あー、それヤバイね。そしたら私可哀想なイカロスの為に飛行機のシート確保してあげよ。
- 2 出来んの？ そんなこと。
- 3 いや出来ないと思う。荷物にこっそりまぎれさせて積むことならギリできるかも。

2 やば、犯罪じゃん。

3 ギリね。

お互い笑い合う

笑ってはいないかもしれないけれど、確かに通じ合っている
ということ、2人は言葉にせずとも、認知している

名残惜しいような、でもあっさりとしたような時間が流れる

2 じゃあ、私こっちなんで。

3 うん。私も、行くね。

2 うん。

④

「4. 1・1」タクシー

3 劇場までお願いします。

1 はい。え？ すぐですけどいいですか。

3 あ、はい。知らない町なので。方向音痴なので。

1 あー、じゃあ、でもほんとすぐ、ここぴゅいって行ってひょいくらい
ですけどね。どうぞ。

3 ありがとうございます。

1 ……あの辺ね、実はね、監獄通りって言うんですよ。

3 え、何それ怖い話ですか。

1 あ、いや、なんかそう見えるだけって話で、もうみんな言ってるんで
すよ、この辺の。なんかね、コンクリートの壁みたいになって。両
側が。

3 あー、なんか防波堤みたいな感じですか。

1 ああ、そう。そう言われればそうですね。

3 あ、でも両側か。

1 あー、そうですね、両側。

3 え、じゃあ2倍強いじゃないですか。

1 あ！ そうだね。あ、ほらここ。

3 あ、ほんとすぐだ。すいません。

1 いえいえ。

3 ありがとうございます。あ、ええ？ なんか、カッコいいじゃないで

すか。なんか基地感あって。あと団地みたいです。団地好きです。

1 あー、なんか実際こっち側？ は住めるみたいよ。

3 へー。いいですね、めっちゃ生きてる感。

1 あれ、そういえば今日なんかあるんですか？

3 友人が、出るんですよ。

「エピローグ」

1 ……はい、と、いうことですね、私の幻燈はこれでおしまいであります。

1 本日はどうも、ありがとうございました。

「エピローグ・2」

2 いつか いつからか 目の前に 見えない

2 そんなことはない (かもしれないしあるかもしれない)

3 は劇場に来ているのだろうか

もしかしたら、もう話を交わさないかもしれない

顔も合わさないかもしれない

それでも、2人は同じ時空間を過ごしていた

幕 (は閉じ切らない)

【参考・引用】

全編

1923年 宮沢賢治『やまなし』

P6

作詞：喜多条忠 作曲：南こうせつ 編曲：木田高介
1973年 南こうせつとかぐや姫『神田川』

P18

作詞作曲：中島みゆき
1983年 中島みゆき『ファイト！』

P19

作詞作曲：甲本ヒロト
1999年 THE HIGH-LOWS 『バームクーヘン』